



SCOUTING 茨城

スカウティングは



World Wide!

活動的で自立した青少年を育てるボーイスカウト!

● 安全なスカウト活動のために



「安全は全てに優先する」

これは、ボーイスカウトが活動を行っていく上での基本姿勢です。しかし、それは安全な環境を作って、その中で過保護的に活動を行うということではありません。

皆さんもご存知の通り、安全には「安全管理」「安全対策」「安全教育」がありますが、その中でもスカウトの冒険心を養い、スカウト自身の活動の幅を広げるためには、「安全教育」が欠かせません。

安全教育とは、対象者の心身の発達や知識・経験の度合いなどを考慮して、いろいろな活動に参加させ、そこに存在するさまざまな障害を適切に捉え、潜在危険を予測して安全に対処できる能力を養うものです。つまり、何らかの危険な活動に際して、予め事故を起こさない、事故に遭わないように「観察と推理」と「整理と分析」で行われる教育のことです。

この安全教育には、「安全知識の教育」「安全技術の教育」「安全態度の教育」の3つの要素があります。

① 安全知識の教育

私たち、ボーイスカウトの指導者は、過去の事故事例などを参考に、スカウトにその防止策を考えさせ、様々な情報を集めさせ、小さな体験学習を積み重ねること等により、生活上の基本事項としての安全知識を修得させています。

ゲームやスポーツ等の場合、そのルールを守ることが安全への基本の第一です。往復の車中や公共の場でのマナーを守る、さらに悪ふざけ等をさせない、これも安全への第一歩です。

② 安全技能の教育

技能とは技術を駆使する能力であり、熟達した技能こそが安全を約束するといえます。また、安全技能の教育は「知っている」ことだけでなく「できる」ことまでを求める教育ということになります。いわゆる「やって見せ、言って聞かせて、させてみる」です。

安全に刃物を使用できる、しっかりとロープを結ぶことができる等々、言い換えれば、スカウト技能の訓練や活動技術などは、実は安全教育の実践そのものなのです。

③ 安全態度の教育

安全知識、安全技能ができていても、それを実際に行うのはスカウト自身であり、それが実行できるかどうかはスカウト当人次第ということになります。「やろうという姿勢」「できる自信」を育てることが大切です。

スカウトにおいては、「カブ隊のさだめ」や「スカウトのおきて」の積極的な実践、そして実践躬行（まずはやってみる）、Learning by Doing（行うことによって学ぶ）がその姿勢です。ですから、指導者が、そのことを十分に理解し日常の活動で絶えず指導や意識付けをしています。

④ 身体能力の発達

上の①から③を満たしたとしても、それらを行うための身体の機能が開発されていなければ、安全を確保することはできません。

この身体能力とは、筋力、筋持久力、瞬発力、心肺持久力、敏捷性、平衡性、

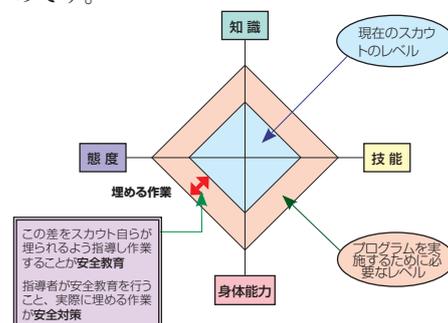
柔軟性等をいいますが、同時に、体の動きを総合的にコントロールし、身体の各部分や用具を巧みに動かして運動するような調整力も含まれます。

これらは、年齢とともに発達するものですので、各部門の指導者はそれを理解した上でプログラムを企画・立案し、提供することが必要であることは言うまでもありません。よく保護者から、もっと高度なプログラムを、もっと規律ある訓練をと求められますが、この「身体能力」という視点から、それぞれの部門での適切な活動を考えているわけです。

○ 事故対処トレーニング

その一方で、事故対処トレーニングも行っています。事故が起ってしまった場合の対応トレーニングで、災害や損害を最小限に食い止める能力を養うために、消防訓練や避難訓練のように、いざという場面での対応についてシミュレーションしています。

ボーイスカウトの指導者たちは、こうしたトレーニングを積み重ねることで、危険に対処する知識と技術の獲得し、更に経験を重ねていくことで身の処し方や安全確保に対する態度を身に付けているのです。



●指導者が大切にしていること



ボーイスカウトを指導する人はどんな人なのでしょう。それは、普通のお父さん・お母さんが大勢を占めています。その指導者たちが必ず実行しているボーイスカウトを特徴づけるひとつのことがあります。

まずは、ボーイスカウトの教育の考え方をお話ししましょう。日本語では「教育」と表現される言葉も、英語では「Instruction」「Education」と2つの言葉に分けられます。知識を与える、教え込むという意味の「Instruction」、能力を引き出すという意味の「Education」、前者は「教」、後者は「育」と言えます。スカウティングでは主に「Education」＝「育」による活動を行っています。

「教」では自発活動はあり得ません。「育」であるからこそ、そこに自発活動があります。この「Education」の語源は「形作る・作り上げる」と「潜在しているものから引き出す・生命を与える」で、いずれも2つの側面を持っています。それは「個人」と「社会」です。というのは、個人とその生活をする社会の両面を考慮することなしに教育しようとすると、どうしても偏ってしまい、スカウティングが求める効果は得られません。

スカウティングは、この個人と社会の両面を組み入れて構成されています。その目指すところは、スカウトが社会で積極的な役割を果たすことができるようにすることで、そのために個人の発達を促すべく支援するのです。

スカウティングは、それぞれのスカウトが自分自身の個人的発達の道筋に沿って自ら歩むよう努力していくという、「外からの教育

(外発的動機付け)」とは対照的な「内からの教育(内発的動機付け)」を提唱しています。これは、良いものを伸ばし、必要なものを自ら求めるといふ、積極的かつ責任ある方法で、潜在・内在するものを成長をさせようというものです。

この「内からの教育」の道しるべとなるのが「進歩制度」です。これを間違えて捉えてしまうと、つまり、それを「外からの教育(外発的動機付け)」で行ってしまうととんでもないことになります。そこでは成績だけが重視された序列が出現し、努力から自信へと繋がるはずの取り組みが、スピードと結果だけが重視されてしまいます。成長プロセスは無視され、努力も自信も段取りも配慮もおざりにされ、記憶力だけの勝利となってしまう。そうです！単に成績という名の結果のみが評価されてしまうのです。(ちょっと大げさですが(笑))

しかし、本当の教育の真髄は、そのプロセスにあります。そのプロセスを知ってやってみること(体験)によって、物事の道理を知ること、つまり役立つ知識・手技(知恵)となるところにあるのですが、今の社会はまさにそれが欠落してしまって、マニュアル人間や指示待ち人間が増殖してしまっているのでしょう。



このスカウティングでの「内からの教育」は、自分で目標を定めて、その達成に向けて努力し、そしてやり遂げること……とまずは解釈してください(それだけではないんですけど……)。

そのひとつに『指導者に学ぶ』という教

育法があります。ふつうは「指導者が教える」です。これでいくと、

- 隊長(隊指導者)がスカウトスキルを持っていなければ教えられない
⇒野外活動ができない
⇒スカウトの成長が望めない

という教育方法になります。

しかし、スカウティングとしてあるべき姿は、「指導者に学ぶ」であって「指導者が教える」ではありません。

つまり、『指導者に学ぶ』とは……

- 隊長(指導者)が、経験によるたくさんの知識やスカウトスキルを持つことで、
⇒スカウト達が、求めて隊長から多くのことを学べる(学びたがる)
⇒野外活動がもっともっと楽しくなる
⇒そうしてスカウトが自分自身をぐんぐん成長させて行く。
⇒だから、求められる隊長になるために、たくさんの知識やスカウトスキルを身に付けていきましょう!

となるのです。

……と長々と書いてきましたが、最初に述べた「ひとつのこと」とは、「スカウト達に求められる」指導者になるように努力を楽しみながら続けていく……ということです。

楽しそうに何かに取り組んでいる姿勢は、スカウトたちの好奇心をくすぐり、それは、指導者への関心に繋がっていきますから。

24WSJ

- アメリカ合衆国ウエストバージニア州サミット・ベクトル・リザーブ
- 2019年7月22日～8月2日
- 第2隊 40名（指導者：4、県内スカウト：31、他県スカウト：5）

第24回世界スカウトジャンボリー（24WSJ）が、アメリカ合衆国のウエストバージニア州で開催されました。会場のサミット・ベクトル・リザーブは、アメリカボーイスカウト連盟が持つ常設のキャンプ場です。広大な敷地の中に常設のアドベンチャーアクティビティの施設が整っている、素晴らしいところです。

日本派遣団第2隊は、園部隊長に、大野、熊田、川島の3副長。3人の上級班長に、スネーク班、アホドリ班、サクラ班、ドードー班の4つの班（茨城のスカウト28名と栃木・埼玉のスカウト5名の）の計40人で編成されました。

行く前のスカウト達の期待、着いてからの驚きと戸惑い、そしてプログラムや交流に夢中になっていく姿はいつの時代でも変わりません。ただ、確実に変わっていたのは2つありました、1つはスカウト達の英語力です。それぞれ多少の差はあるものの英語でのコミュニケーションがとれていました。もう1つは、大会のICT環境です。情報は全てIT化され、Wi-Fiが整備され、スマホやNOVUSを使った情報環境は驚きの進歩でした。

ほとんどのスカウトが、「外国のスカウトとの交流」や「お互いの文化を理解する」という目標を立てていましたが、ほぼ達成できました。この年代のスカウト達が、同じ環境の中で世界中のスカウトと「生」の国際交流ができたことは、素晴らしいことであり、それは旅行などでは決して経験できないものです。勇気を出して参加したスカウト、行かせてくれた保護者の皆さま、本当に良かったと思います。多くは語らない年頃ですが、きっと一生の糧になる「何か」を掴んで帰って来ているはずですよ。

“感謝”





いざ出陣



交流



日本の米は世界一



揃いのダッフル



Unity Show

24WSJ



サミットベクトル



日本の米は世界一



ピザ



サイトの夕焼け



折り紙



お茶の接待



ザ・ロック



ジップライン



スカウトズタウン、BPの孫



01

ボーイスカウト振興茨城議員連盟 春の意見交歓会、議員連盟総会

ボーイスカウト振興茨城議員連盟は、ボーイスカウト運動の趣旨に賛同され、ボーイスカウト活動を通じた子どもたちの健全育成を応援していただいています。

その議員連盟の皆さんが、4月30日に、ボーイスカウト活動への理解を更に深めるために、第24回世界スカウトジャンボリーに派遣される第2隊の訓練の見学と県内の指導者や県連の役員との意見交換のために土浦青少年の家を訪問されました。

当日は、つくば第3団の門屋 快 (かどや かい) くんが富士草の伝達も行われ、議員の皆さんは、ボーイスカウトの進歩制度や班制教育にも大いに興味を持っていただきました

交換会には、小川一成会長、伊沢勝徳監事、山岡恒夫幹事長、星田弘司幹事、山野井 浩、石塚隼人、安藤真理子、外塚 潔、沼田和利、塚本一也、谷島洋司の各議員が参加され、茨城連連盟からは、八木理事長、河合、高橋、宮田、中島各副理事長、吉田、平澤各理事、若林県コミ、海老原副コミ、八城名誉会議議員、八城事務局長の他、菊地、白井、本橋、工藤、園部、鬼木の各指導者が参加しました。

また6月6日には、ボーイスカウト振興茨城議員連盟の総会が行われ、本年もまた多額の助成金をいただきました。



02

ベンチャー交流会

6月30日(日)に、県内のベンチャースカウトの交流とベンチャーラリーなどベンチャーの自発活動促進を目指したベンチャー交流会を、土浦市青少年の家で開催しました。県内各団から15名のベンチャースカウトが参加しました。午前中にチームビルドを兼ねたバイオニアリング基礎講座で、信号塔の基礎となる三角を作成しました。午後は各隊・地区のベンチャー活動をそれぞれ紹介した後、ベンチャーラリーに向けた話し合いを実施しました。4つの企画案を各地区に持ち帰り、10月の実行委員会までに、企画の実現性や具体的計画などを話し合ってくることになりました。



<スカウトの感想より>

◆ベンチャー交流会では、やりたいことについてのアイデアがたくさん出て、ボーイ隊とはちがうんだなあということを感じた。ベンチャー活動を広めるために、自分たちができることを考えるのも、自分たちのためだけでなく、県全体にかかわることなので、とても有意義な活動だと思う。

◆初めてのベンチャー交流会で、緊張もしましたが、みんないい人ばかりで楽しく活動することができました。バイオニアリングで学べたことはチームワークの大切さです。一人ひとりが自分のやれることを見いだしながら仲間と協力する、ロープワークを完璧にしておくなど、様々なことを教えてもらうことができました。

03

橋本千代壽長老・山田隆士連盟長を 偲ぶ会 開催

3月10日(日)、茨城県立歴史館講堂において、本年1月に亡くなられた橋本千代壽長老、昨年9月に亡くなられた山田隆士連盟長を偲ぶ会が催されました。

偲ぶ会は、橋本家、山田家をお招きし、県内のスカウト・指導者の代表、ボーイスカウト日本連盟、関東ブロックの各県連盟の代表の方々、ボーイスカウト振興茨城議員連盟、ボーイスカウト茨城県連盟維持財団等から多くの方の参列をいただき厳かに行われました。



04

ボーイスカウト体験のススメ

ボーイスカウトに興味がある、ボーイスカウトについて知りたい、活動を見て見たい・・・という方に、県内のボーイの各団では、活動体験やボーイスカウトについての説明の機会を設けています。お住まいの近くの団に直接申し込んでいただくか(県連ホームページ・<http://www.scout-ib.net/03TroopInfo/index.html> をご参照ください。)、茨城県連盟事務局(電話:029-226-8482、火木土の10:00-17:00)にご連絡をいただければ、お近くの団をご紹介します。お気軽にご連絡ください。

茨城のボーイスカウトの活動は、県連ホームページをご覧ください。

⇒ <http://www.scout-ib.net/>



SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城 2019年 第2号 通算 50号 令和元年11月発行
発行 日本ボーイスカウト茨城県連盟
〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 茨城県立青少年会館3F

※ SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。

※ SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。
<http://www.scout-ib.net/>

※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。
著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。